

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(浸水防護施設(機電関係))

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	目次	設計進捗に伴い、80A型(ねじ込み取付式)の項目を追加しました。 また、項目の追加に伴いページ番号を適正化しました。	2022/11/2	
2	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.1	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、以下のとおり記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)床ドレン逆止弁は、浸水防護施設としてSクラス施設に分類される。 (新)床ドレン逆止弁は、浸水防護施設としてSクラス及びCクラス施設に分類される。	2022/11/2	
3	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.1	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表2-1に設置場所、設置階及び高さを追加しました。	2022/11/2	
4	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.2,10,11,14,16,17,21~24,28	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表2-2の構造計画に80A型(ねじ込み取付式)を追加しました。 また、以降のページに「ボルト取付式」と「ねじ込み取付式」を識別する記載を追加しました。	2022/11/2	
5	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.5,6	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表2-4の記号の説明に80A型(ねじ込み取付式)の取付部の応力評価に必要な記号を追加しました。また、フロートガイドの本数 n_f を追記しました。	2022/11/2	
6	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.6	他図書との整合のため、表2-4の記号の説明のうち f_{ts} の記載を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧) f_{ts} 引張力のみを受けるボルトの許容引張応力(f_t を1.5倍した値) (新) f_{ts} 引張力のみを受けるボルトの許容引張応力(f_t を1.5倍した値)	2022/11/2	
7	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.6	他図書との整合のため、表2-4の記号の説明のうち f_{ts} の記載を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧) f_{ts} 引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力 (新) f_{ts} 引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力(許容組合せ応力)	2022/11/2	
8	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.7,13~15	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、評価部位に取付部を追加しました。	2022/11/2	
9	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.10,11	表4-3として、80A型(ねじ込み取付式)の固有周期の計算条件を追加しました。また、表の追加に伴い以降の表番号を適正化しました。	2022/11/2	
10	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.11	表4-4に80A型(ねじ込み取付式)の固有周期の計算結果を追加しました。	2022/11/2	
11	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.12	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-1のうち耐震重要度分類にCクラスの記載を追加しました。	2022/11/2	
12	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.13~15	他図書との整合のため、表5-2及び表5-4の許容限界(ボルト)の組合せ応力を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)許容限界(ボルト) 組合せ: f_{ts} (新)許容限界(ボルト) 組合せ: f_{ts}	2022/11/2	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
13	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.13	他図書との整合のため、表5-2の注記*4を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)*4:せん断応力と引張応力の組合せ応力 せん断応力と引張応力を同時に受けるボルトの許容引張応力 f_{ts} は、次のいずれか小さい方の値 $f_{ts}=1.4\cdot f_{to}-1.6\cdot \tau$ $f_{ts}=f_{to}$ (新)*4:せん断応力と引張応力の組合せ応力 せん断応力と引張応力を同時に受けるボルトの許容引張応力 f_{ts} は、次のいずれか小さい方の値 $f_{ts}=1.4\cdot f_{to}-1.6\cdot \tau$ $f_{ts}=f_{to}$	2022/11/2	
14	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.14	表5-3のうち80A型(ボルト取付式)及び300A型(ボルト取付式)の基礎ボルトの材質を「SUS316」から「SUS316L」に見直しました。また、見直しに伴い S_y , S_u , F の値を適正化しました。	2022/11/2	
15	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.14	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-3に80A型(ねじ込み取付式)を追加しました。	2022/11/2	
16	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.15	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-4に80A型(ねじ込み取付式)を追加しました。	2022/11/2	
17	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.14,28	基礎ボルトの材質の見直しに伴い、表5-4及び表7-1の基礎ボルトの許容応力の値を適正化しました。	2022/11/2	
18	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.15	床ドレン逆止弁が設置されている各基準床レベルのうち、最大となる設計震度を設定していることが分かるようにするため、表5-5に各床ドレン逆止弁が設置される据付場所及び床面高さを追記しました。	2022/11/2	
19	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.15	表5-5の注記*3を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)*3:設計用震度Ⅰ(基準地震動 S_s)を上回る設計震度 (新)*3:設計用震度Ⅱ(基準地震動 S_s)を上回る設計震度	2022/11/2	
20	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.19,20	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、「5.5 計算方法」に「(4)取付部」として評価内容を追加しました。	2022/11/2	
21	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.21,25,26	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-8として、80A型(ねじ込み取付式)の応力評価に用いる計算条件を追加しました。	2022/11/2	
22	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.22,24	表5-6及び表5-7の基礎ボルトの材質を適正化しました。	2022/11/2	
23	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.28	表7-1に(単位:MPa)を追加しました。	2022/11/2	
24	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.28	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表7-1に80A型(ねじ込み取付式)の応力評価結果を追加しました。	2022/11/2	
25	NS2-添2-011-14	VI-2-10-2-10 床ドレン逆止弁の耐震性についての計算書	P.29	床ドレン逆止弁が設置されている各基準床レベルのうち、最大となる加速度を設定していることが分かるようにするため、表7-2に各床ドレン逆止弁が設置される設置床及び据付場所を追記しました。また、評価用加速度に対して以下の注記を追加しました。 注記*1:評価用加速度は、床ドレン逆止弁が設置されている各基準床レベルのうち、最大となる加速度を設定した。 *2:設計用震度Ⅱ(基準地震動 S_s)を上回る設計震度	2022/11/2	
26	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	目次	設計進捗に伴い、80A型(ねじ込み取付式)の項目を追加しました。 また、項目の追加に伴いページ番号を適正化しました。	2022/11/2	
27	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.2,12,13,16,17,21,22,26~29,32	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表2-1の構造計画に80A型(ねじ込み取付式)を追加しました。 また、以降のページに「ボルト取付式」と「ねじ込み取付式」を識別する記載を追加しました。	2022/11/2	
28	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.4	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、図2-1の応力評価フローに取付部を追加しました。	2022/11/2	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
29	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.6,22,27,29	表2-3に弁本体の外径 D_1 、フロートガイドの本数 n_f を追記しました。合わせて、重畳時に基礎ボルトに作用する評価に用いる受圧面の直径 D_0 を D_5 に適正化しました。	2022/11/2	
30	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.6,7	表2-3に80A型(ねじ込み取付式)の取付部の応力評価に必要な記号を追加しました。	2022/11/2	
31	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.7	他図書との整合のため、表2-3の記号の説明のうち f_{t0} の記載を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧) f_{t0} 引張力のみを受けるボルトの許容引張応力(f_t を1.5倍した値) (新) \underline{f}_{t0} 引張力のみを受けるボルトの許容引張応力(f_t を1.5倍した値)	2022/11/2	
32	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.7	他図書との整合のため、表2-3の記号の説明のうち f_{ts} の記載を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧) f_{ts} 引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力 (新) \underline{f}_{ts} 引張力とせん断力を同時に受けるボルトの許容引張応力(許容組合せ応力)	2022/11/2	
33	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.9	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、80A型(ねじ込み取付式)の取付部に加わる応力の説明を追加しました。また、評価部位として取付部を追加しました。	2022/11/2	
34	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.12,13	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表4-3として、80A型(ねじ込み取付式)の固有周期の計算条件を追加しました。また、表の追加に伴い以降の表番号を修正しました。	2022/11/2	
35	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.13	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表4-4に80A型(ねじ込み取付式)の固有周期の計算結果を追加しました。	2022/11/2	
36	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.13	読み込み図書の章番号を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)「5.2 強度評価方法」 (新)「5. 強度評価方法」	2022/11/2	
37	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.15~17,32	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、取付部の供用状態及び許容限界の説明を追加しました。	2022/11/2	
38	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.15,16	取付部を評価部位として追加したことに伴い、表5-2の許容限界(ボルト以外)の応力評価に引張応力を追加しました。	2022/11/2	
39	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.15,17	他図書との整合のため、表5-2及び表5-4の許容限界(ボルト)の組合せ応力を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)許容限界(ボルト) 組合せ: f_{ts} (新)許容限界(ボルト) 組合せ: \underline{f}_{ts}	2022/11/2	
40	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.16	他図書との整合のため、表5-2の注記*4を以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)*4:せん断応力と引張応力の組合せ応力 せん断応力と引張応力を同時に受けるボルトの許容引張応力 f_{ts} は、次のいずれか小さい方の値 $f_{ts} = 1.4 \cdot f_{t0} - 1.6 \cdot \tau$ $f_{ts} = f_{t0}$ (新)*4:せん断応力と引張応力の組合せ応力 せん断応力と引張応力を同時に受けるボルトの許容引張応力 \underline{f}_{ts} は、次のいずれか小さい方の値 $\underline{f}_{ts} = 1.4 \cdot \underline{f}_{t0} - 1.6 \cdot \tau$ $\underline{f}_{ts} = \underline{f}_{t0}$	2022/11/2	
41	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.16	表5-3のうち80A型(ボルト取付式)及び300A型(ボルト取付式)の基礎ボルトの材質を「SUS316」から「SUS316L」に見直しました。また、見直しに伴い S_y 、 S_u 、 F の値を適正化しました。	2022/11/2	
42	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.16	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-3に80A型(ねじ込み取付式)の許容応力評価条件を追加しました。	2022/11/2	
43	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.17	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-4に80A型(ねじ込み取付式)の許容応力算出結果を追加しました。	2022/11/2	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
44	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.17,32	基礎ボルトの材質の見直しに伴い、表5-4及び表6-1の基礎ボルトの許容応力の値を適正化しました。	2022/11/2	
45	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.18	床ドレン逆止弁が設置されている各基準床レベルのうち、最大となる設計震度を設定していることが分かるようにするため、表5-6に各床ドレン逆止弁が設置される据付場所及び床面高さを追記しました。	2022/11/2	
46	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.18	表5-5の注記*3を以下のとおり適正化しました。(下線部参照) (旧)*3:設計用震度Ⅰ(基準地震動S _S)を上回る設計震度 (新)*3:設計用震度Ⅱ(基準地震動S _S)を上回る設計震度	2022/11/2	
47	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.19	荷重の組合せについて適切な表現とするため、以下のとおり記載を修正しました。(下線部参照) (旧)ただし、弁本体自重W _{d1} と弁本体に加わる鉛直方向地震荷重F _{V1} を組み合わせた荷重は圧縮応力σ _{V1} を緩和する方向に作用するため考慮しない。 (新)ただし、弁本体自重W _{d1} と弁本体に加わる鉛直下向きの地震荷重F _{V1} は圧縮応力σ _{V1} を緩和する方向に作用するため考慮しない。	2022/11/2	
48	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.19	適切な表現とするため、以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)図5-1 弁本体の寸法図(300A型の例) (新)図5-1 床ドレン逆止弁本体の構造図(300A型(ボルト取付式)の例)	2022/11/2	
49	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.20	荷重の組合せについて適切な表現とするため、以下のとおり記載を修正しました。(下線部参照) (旧)ただし、フロートガイド自重W _{d2} とフロートガイドに加わる鉛直方向地震荷重F _{V2} を組み合わせた荷重は圧縮応力σ _{V2} を緩和する方向に作用するため考慮しない。 (新)ただし、フロートガイド自重W _{d2} とフロートガイドに加わる鉛直下向きの地震荷重F _{V2} は圧縮応力σ _{V2} を緩和する方向に作用するため考慮しない。	2022/11/2	
50	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.22	荷重の組合せについて適切な表現とするため、「(3) 基礎ボルト a. 引張」に以下の記載を追加しました。 ただし、弁本体自重W _{d1} と弁本体に加わる鉛直下向きの地震荷重F _{V1} は圧縮応力σ _{V3} を緩和する方向に作用するため考慮しない。	2022/11/2	
51	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.24,25	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、「5.5 計算方法」に「(5)取付部」として評価内容を追加しました。	2022/11/2	
52	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.26,30,31	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表5-9として、80A型(ねじ込み取付式)の構造強度評価に用いる計算条件を追加しました。	2022/11/2	
53	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.26,28	表5-7及び表5-8の基礎ボルトの材質を適正化しました。	2022/11/2	
54	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.32,33	表6-1に(単位:MPa)を追加しました。	2022/11/2	
55	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.33	80A型(ねじ込み取付式)の項目追加に伴い、表6-1に80A型(ねじ込み取付式)の応力評価結果を追加しました。	2022/11/2	
56	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.32,33	表6-1に取付部の構造強度評価結果を追加したことに伴い、注記*1に引張応力を追加しました。	2022/11/2	
57	NS2-添3-015-10	VI-3-別添3-2-7 床ドレン逆止弁の強度計算書	P.32,33	取付部の構造強度評価結果の追加に伴い、表6-1を(1/2)及び(2/2)に分割しました。	2022/11/2	
58	NS2-添2-011-19	VI-2-10-2-15 貫通部止水処置の耐震性についての計算書	P.9,17,21	fのフォントを修正しました。(下線部参照) (旧)f _s f _{to} f _{ts} (新)f _{sb} f _{to} f _{ts}	2022/11/2	
59	NS2-添2-011-19	VI-2-10-2-15 貫通部止水処置の耐震性についての計算書	P.17	以下の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)許容引張応力 (新)許容組合せ応力	2022/11/2	

No.	図書番号	図書名称	該当頁	適正化内容	提出年月日	備考
60	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.9,16,17,25	fのフォントを修正しました。(下線部参照) (旧)fs fto fts (新) f_{sb} f_{to} f_{ts}	2022/11/2	
61	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.16	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)許容引張応力 (新)許容組合せ応力	2022/11/2	
62	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.12	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)(4) 余震荷重(Ksd) (新)(4) 余震荷重(Sd)	2022/11/2	
63	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.13	表4-11について、誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)D+Ph+Pd+Ksd (新)D+Ph+Pd+Sd	2022/11/2	
64	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.13	表4-11の注記*について以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)注記*:Dは固定荷重, Phは静水圧による荷重, Pdは動水圧による荷重, Ksdは余震荷重を示す。 (新)注記*:Dは固定荷重, Phは静水圧による荷重, Pdは動水圧による荷重, Sdは余震荷重(動水圧を含まない。)を示す。	2022/11/2	
65	NS2-添3-015-12	VI-3-別添3-2-9 貫通部止水処置の強度計算書	P.24	表4-11の「金属ボックスの受圧面積(側面)」及び「金属ボックスの受圧面積(上面)」について単位(mm ²)を追記しました。	2022/11/2	
66	NS2-添3-015-21	VI-3-別添3-4-6 貫通部止水処置の強度計算書(溢水)	P.11	表5-1の注記*について復水貯蔵タンクエリアの溢水量変更に伴い、以下のとおり修正しました。(下線部参照) (旧)注記*:シール材(電路)及びブーツについては、内部溢水による発生圧力が最も大きく、それぞれ0.13MPa及び0.11MPaである。 (新)注記*:シール材(電路)及びブーツについては、内部溢水による発生圧力が最も大きく、それぞれ0.12MPa及び0.10MPaである。	2022/11/2	